



2017 | SPRING #05

掲載情報は発行当時の物であり、
現在の情報とは異なる点もございます。
あらかじめご了承ください。



Shimokitazawa

SOUND CRUISING

＜昼夜ぶっ通し＞国内最大級のパーティー・サーキット
「サウクル 2017」特集



LAMP IN TERREN

『fantasia』リリースツアー直前のリハーサル現場に潜入

Healing
Heavenly
Happy
Hello
HIP LAND MUSIC
Hope
Hear
Humor
Hero
Harmony
Honesty
Human
Home
Heart



"H" words make you more fulfilled.

+H 限定ARムービー公開中。表紙を読み込み、動画をチェック。

下記のステップでアプリをダウンロードし、+Hの表紙をそれぞれ読み込むと「サウクル2017」「LAMP IN TERREN」の限定動画を視聴できます。



ARサービス
「ココアル2」

STEP 1

アプリストアで「COCOAR2」と検索

STEP 2

ダウンロードしたアプリを立ち上げて、「スキャン」ボタンを押して、表紙にスマートフォンをかざす

STEP 3

画像を認識すると動画が自動再生

COCOAR2

SPECIAL:01 Shimokitazawa SOUND CRUISING

<昼夜ぶっ通し>国内最大級の
パーティー・サーキット「サウクル 2017」特集

『Shimokitazawa SOUND CRUISING 2017』2017.05.27

DAY OPEN 13:00 / START 14:00 / CLOSE 22:00(予定)

NIGHT OPEN 23:00 / START 23:30 / CLOSE 05:00(予定)

前売券:DAY/NIGHT通し:¥5,900

DAYのみ/NIGHTのみ:¥4,800/¥3,000 (+1D)

各プレイガイド及び一部店舗で好評発売中

会場:下北沢17会場同時開催 詳細はこちらからご確認ください→
<http://soundcruising.jp>



STAFF INTERVIEW



←R:森田大介(タワーレコード)、柳井貴(ヒップランド)、三宅正一(ライター)、新井貴大(びあ)、藤澤慎介(THISTIME)

今や音楽の街・下北沢の風物詩となっている、Shimokitazawa SOUND CRUISING。同イベントは過去5回の開催において、下北初となるタワーレコードの店舗の開設や、ブレイク前のSuchmos・yahye!らの起用など、数々の偉業を成し遂げてきた。

なぜ、SOUND CRUISINGは前人未到の領域を突き進むのか？そして今年開催される第6弾には、どのような仕掛けが待ち受けているのか？主催である4社の代表に話を聞いた。

取材＝三宅正一(Q2) 構成・文＝笠原英里 撮影＝Hスタッフ

——まず、SOUND CRUISING(以下サウクル)は誰が発起人になって始動したんですか？

柳井貴(ヒップランド)：最初はSMASHさんとTHISTIMEでやっていて、言い出しっぺ中の言い出しっぺはTHISTIMEです。下北沢で、オールナイトで、夜中に酒を飲みながらやるような遊び場を作れたらいいよねっていう感じで始まりました。2年目に入り座組を替えて、InterFMさんとサンライズ(プロモーション東京)さんが乗ってきてくれたんだよね？

藤澤慎介(THISTIME)：InterFMさんとは3年目まで一緒にやりました。

柳井：で、4年目にイベントの中身を組んでいたTHISTIMEから、「来年どうしよう？」という相談がウチに来て。「じゃあヒップランドもやるけど、ウチだけで全部背負うのは荷が重いから、仲間を探そう」って声をかけたのがタワーレコードさんで。タワーさん経由で入ってくれたのが、びあさんなんです。

——そういう流れだったんですね。この4社体制になったのはいつですか？

新井貴大(びあ)：去年ですよ。

柳井：4年目が、ヒップランド、タワー、THISTIMEで。5年目の去年でびあさんが合流して、6年目である今年はそのまま5年目と同じ体制で迎えると。

——なるほど。今、サーキットイベントって全国規模であるじゃないですか。その中でサウクルを下北沢という土地でやる意味はどんなところにあるんですか？

藤澤：サーキットという意識より、DJのパーティーが会場あるみたいな感じです。バンドが同じ時間帯で戦うのはサーキットにはよくあることですけど、DJがそれをするというのはサウクル以前にはそもそもなかったと思うんですよね。あと、Free ThrowとかJUKEBOXとかのDJチームって自分のパーティーに積極的にバンドを呼んでいたんです。それって今となっては普通のことですけど、それらのパーティーなくしてはそ

の考えは存在しなかったと思うんです。そういったイベントが下北をメインに行なわれていて、それをそのまま遊び場ととらえつつステージを会場分、今年で言うなら17個にしたというのがサウクルなんです。

——そこにタワーレコードさんとびあさんが合流した理由はなんですか？

森田大介(タワーレコード)：柳井さんと僕の上司がもともと知り合いで。「こういうおもしろいイベントがあるから、話だけでも聴いてみない？」って言われたところからサウクルに関わり始めています。いざ本格的に関わり始めた時に、「タワーレコードって下北沢にないよね？」「確かにそうだね！」という話で盛り上がって、「じゃあ、作ってみようか！」となったんです。そして、一昨年からタワーレコード下北沢店を出店することになりました。

——タワーさんにとっても意義深いですよね。

森田：そうですね。下北沢店の出店にあたっては、社内の各部署が協力してくれて。「(オープンまで)1週間？ わかった。じゃあ俺がこの仕器なんとかするぜ！」みたいな熱い人たちの声を励みにやれているっていう感じがですね。

——あの「TOWER RECORDS SHIMOKITAZAWA」っていうロゴを見ただけで感動するものがあります。

森田：ありがとうございます。でも、2年目になると、やっぱり「今年もやるんでしょ？」みたいな空気になるんです。慣れてって怖いですね(笑)。でもいざやってみたら、前の年より評判がよかったんですよ。お客様も「待っていました！」っていう感じで楽しんで頂けた気がします。そんな中、下北沢店でやっていたのが、「みなさんのデモCDを置きます！」という企画です。僕はそれがすごく意義深かったと思っています。アマチュアのアーティストの作品がタワーレコードに置けるのって、ちょっと刺激的じゃないですか？しかもその音源を全く知らない人が手に取って、興味を持ってくれて、もしかしたら彼らのライブに行くっていう。当たり前ですけど、その一連の流れは本当に美しいなって改めて思ったんです。未知の作品を知らない人に届けられるリアルな場所。そこが下北沢店を出店している一つの意義なのかなっていう気はしています。

——場所にいくだけでも魅力があれば、SNSを越えて、ネットを越えて、人から人へ作品を渡せる機会をまだまだ設けられるっていうことですね。びあさんは、サウクルをやる意義をどういうところに感じていますか？

新井：僕的には、会社というよりは、個人的に強い意志があって。学生時代に音楽業界に携わりたくなって思っていた中で、自分が頻繁に使っているプレイガイドって、イーラスだったりしたんですよ。そんな中でびあっていう会社を選んで、自分がそれをひっくり返したいなっていう強い意志が生まれたんです。(サウクルから)お声掛けいただいた時も、下北沢界隈のプレイガイドの勢力図みたいなのを、自分の力で少しでも変えることができたなって思いました。主催として一緒にすることになって2年目になり、音楽好きな若い人に少しでもチケットびあが広まっていったらいいなと思います。その気持ちが一番大きいです。(サウクルは)びあっぽくないイベントなんですよ。だけどそれをびあがやっていることによって、「なんでびあがやっているの？」って思われることが僕的には嬉しいというか、そういういい意味でのノイズができるっていいなって思っています。

——なるほど。ブックキングのバランスはどのように考えてますか？

柳井：みんなが思うサウクル的、ないしはサウクルに出てほしいバンドとかミュージシャンにそれぞれが勝手に声をかけて、「今ここに声をかけているよ」って共有している感じがですね。

——時期的にはいつごろから動き出すんですか？

藤澤：他のフェスやサーキットよりはだいぶ遅いかもかもしれません。遅いというのは意図的なところもあって。

— という？

藤澤：たとえば、(最初からオファーが)固まっているアーティストはいるんですよ。サウクルで言ったら、一番大きいハコってGARDENで、そこは早めにブッキングするんですよ。でも、ブッキングの感覚って1、2ヶ月で変わっちゃうイメージがあって。

— フレッシュなおもしろさが大事っていうことですね。

藤澤：そう。半年前にオファーしても、半年後にそのアーティストをおもしろいと思っているとは限らなくて。むしろ体感的には3月くらいから急激におもしろくなってきたりするんですよ。だから他のフェスなどではありえないショートタームでオファーすることも少なくないですね。17 個それぞれのハコで色が違って、それぞれが開催日に向かって山を作っていくイメージを期待しているの。ブッキングは早すぎず、付かず離れずなバランスを心がけてます。だからアーティストの皆さんは3月くらいまでオファーの連絡が来なくても心配しないで下さい(笑)

— あとタイムテーブルの組み方とか、どのアーティストをどのハコにするか、なども聞きたいのですが。正直、一昨年出演したSuchmosは会場が狭すぎだったじゃないですか。

藤澤：あれはめちゃくちゃおもしろかったですね。だって、2014年のオファー前の時点では「集客力はまだないけど、カッコいいからSuchmosを呼びたい」というリアルな会話がブッカーの中ではありました。それで、Daisy Barに出演してもらったんですけど。今言っちゃうとおまえら何様って感じになっちゃいますけど(笑)

— 開催当日にはSuchmosの求心力がかなり高くなっていた。

藤澤：そう。时期的にはあのあたりからSuchmosの注目度が一気に上がっていった。— さっき言ったタイム感の話ですね。話は変わりますが、今、サウクルの出演者の予想や出演してほしいアーティストを募る企画が盛り上がりっているみたいですが、その企画を始めた経緯はどういう感じなんですか？

柳井：やっぱりゲームみたいなことがまずなくて、「おもしろいんだったら勝手になんでもやってよ」みたいな感じなので、そういう流れでやっています。

藤澤：それもあるし、「おもしろいものを教えてくれない？」っていうスタンスでいるっていうのもあります。最近、お客さんの方がわかっているんですよ。「なんでこの人呼んでないの？」っていうくらいの圧で来るんです。で、実際に薦められたアーティストを観てみたら、「すげえおもしろい！」ってなることが多くて。その感じを補完しているんです。

— 実際にブッキングに反映しているんですか？

藤澤：しています。今年の第3弾発表の時も、「これとこれとこれが当たりました。当ててくれた皆さん、ありがとうございます！」みたいなやり取りがあって(笑)。

新井：僕もけっこう見えています。あのハッシュタグ(#サウクル出演予想)って、単純にお客さんが予想するだけでなく、「自分たちを出してくれ」みたいなものも多いですよ。

藤澤：そうそう。みんな「自分らはここ(サウクル)」って思ってくれている。そこが感動しますね。

— いわゆる東京インディーの潮流が、それこそSuchmosの大成功を皮切りに、一つのピークを迎えたとも言えると思います。そういったことも踏まえて今年のラインナップでどんなことを意識しますか？

藤澤：単純にですけど、ヒップホップの出演者は多いかもしれないですね。たとえば2016年にyahyelが出ましたけど、yahyelはカルチャー的にもトラック的にも向井太一やKANDYTOWNともリンクしているわけじゃないですか。あの辺はめちゃめちゃクロスオーバーしていますよね。



未来への軸と集大成の軸が交わるのが今年のサウクルになるんじゃないかと思えますね。

— サウクルはお客さんの音楽的な嗜好の幅を広げるイベントでもあると思います。

藤澤：そうそう。海外アーティストも実は毎回少し呼んでいて。今年も今後追加発表できると思えます。

新井：海外向けのチケット販売もあります。英語対応で。

藤澤：それは去年、VIVA LA ROCKからサウクルにはしごをしたインドネシアの人やタイの人がいたという流れを受けてです。

— すごくいい流れですね。たとえば今後、海外でサウクルを開催する構想はないんですか？

藤澤：それはまだまだ遠い話ですね(笑)。ただ、ドメスティックに広めていきたい思いは、僕個人としてはあります。今は東京だけなので、いずれ関西、東海を含めて開催できたら面白いのかもですが。

柳井：うーん、逆に地方出身者としては、あんまり地方にサウクルを動かす必要はないな思っていて。たとえば僕ら世代の地方の人間には、「早く大人になって東京のLONDON NITEに行ける歳になりたい！」みたいな憧れがあったんです。音楽の街・下北沢というイメージも一つのブランドだと思うんですよ。「下北沢でこういうイベントをやっているよ」って地方にもインターネットを通じて飛ばしたいけど、地方では味わえない遊びを早く味わえるようにになりたいという憧れは必要だと思う。

池谷航(タワーレコード)：うん。憧れの場っていうのは絶対必要だと思う。

藤澤：それはあるかも(笑)

— わかりました。最後に、来場者へのメッセージがあればお願いします。

新井：僕は、主催者側とお客さんのどちらが楽しめるかっていう勝負をしたいなと思いますね。

池谷：うん、間違いなく新井は楽しんでいるよ(笑)。下北でこんなイベントを開催しているという空気感を、主催者サイドが楽しんでいるんですよ。だから、お客さんも存分に楽しんでほしいという思いはもちろんあります。さっき柳井が言っていたが、音楽が好きの人ってどの世代でもあのハコで遊びたいとか、フジロックに行ってみたいとか、LONDON NITEに行ってみたいとか、そういう憧れの場所を持っていると思うんです。サウクルも若い子にとってそういう場所になってほしいですね。サウクルは、音楽がちよっとでも好きだったら、何十通りも楽しめる場所なんです。それこそ下北という街を楽しんでもらうのも一つの楽しみ方だし、ライブハウスに行ったらライブを観まくるのもそうだし、クラブイベント的な感じで朝まで酒飲んで仲間とグラグラ笑うのもそうだし。それはもう、自由だから。ちよっとでも音楽好きだったら、サウクルに来て、サウクルをキーワードに自由に遊んでほしい。それがこのイベントの一番いいところだから。今年も僕らも全力で楽しみます。



サウクルスタッフ、イチ押しアーティスト！！



NUITO

京都の3人組マスロックバンド。昨年7年ぶり活動再開後もマイペースな活動を続けており、一回一回のライブが一撃必殺のライブであることは間違いない。またSSC2017が初のサーキット参戦とのこと。超必見！！



ナードマグネット

共演たちに「ナードマグネットになりたい」と言わせてしまう、大阪発泣き虫ロックのニューヒーロー。昼はサラリーマン、夜はバンドマンというボーカル須田の等身大で情けない失恋の歌が、老若男女をライブハウスに向かわせる。



向井太一

ネイティブ日本人によるネイティブなブラックミュージックが誕生、向井太一のソウルフルな歌はそんなすごい時代の到来を予感させる。yahyelやstarRoらオルタナティブなクリエイターとボーダーレスに共鳴しつつ、さらりとモデル業もこなす強烈な個性はクラブシーンの枠では収まりきらないだろう。



PassCode

大阪発の四人組アイドル。アイドルという枠に収まりきらない過激な激しいパフォーマンスやメンバーのシャウトが特徴的でPassCodeの魅力となっている。ラウドロック、EDM中心の楽曲でアイドルファンからロックバンドファンまで幅広く支持を集めている。

HIP LAND MUSIC 関連アーティストも多数出演！！



天オバンド



Kidori Kidori



Predawn



ワンダフルボーイズ



パノラマパナマタウン



Saucy Dog

TOWER RECORDS SHIMOKITAZAWA

サウクル名物
タワーレコード下北沢店
期間限定オープン
2017.5.20(土)~27(土)

サウクル2017開催に合わせ、5/20~27の8日間限定で、京王井の頭線高架下「下北沢ケージ」内に「タワーレコード下北沢店」をオープンします。数多くのライブハウスや音楽レーベルが軒を連ねる音楽の街・下北沢に2年連続でオープンし、イベント参加者はもとより、近隣の方にも多くご来店いただいた「タワーレコード下北沢店」。今年は場所を京王井の頭線高架下に移し、サウクル出演アーティストの関連作品やオリジナルグッズをはじめ、同イベント出演者のキラチューンを網羅したコンピレーション・アルバムなどを販売。さらに、店内では様々なイベントも開催し、イベントに参加する方はもちろん、音楽ファンの方にも新たな音楽と出会う場所を提供します。



V.A.「Shimokitazawa SOUND CRUISING 2017」
「サウクル2017」出演者のキラチューンを
網羅した枚数限定コンピレーション・アルバム。
¥926(+税)
収録楽曲未定(全20曲を予定)

COVER MODELS



岩瀬想太

パノラマパナマタウンのVo&Gt。
北九州市出身の22歳。趣味は映画鑑賞。この度4月に神戸より上京し、現在は東京を拠点に活動中。第2章のスタートとして、2017年6月7日(水) 3rd mini AL『Hello Chaos!!!!』をリリースすることが決定。

Twitter @perrrrrbuwa Instagram @buubuu_ppt

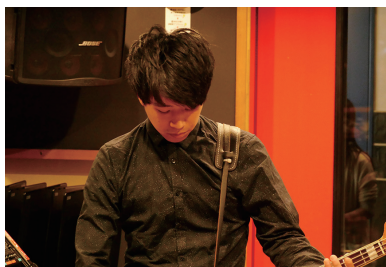


7A

6でも8でもない。/ なまえ みたいな名前。無所属。いろいろやる人。モデル、女優、ショップスタッフ、スタイリストなど幅広く活動中。現在、新代田『飲み屋 えるえふる』から発信するラジオ「えるえふるラジオ」でパーソナリティーとして出演中。

Twitter @hatokowai Instagram @not_six

サウクル特集の撮影の裏側を「+H WEB」で公開中！



SPECIAL:02 LAMP IN TERREN

『fantasia』リリースツアー直前のリハーサル現場に潜入

2006年、長崎県にて中学校の同級生で結成。「LAMP IN TERREN」というバンド名には"この世の微かな光"という意味が込められている。そのバンド名が表すようにボーカル松本 大の生み出す楽曲には、未来をほのかに照らす優しさが宿っている。4月12日に満を持してリリースされた3rd AL『fantasia』。そのリリースワンマンツアーがついにスタートした。今作の想いをお客さんにどのように届けるのか。リリースツアー直前のリハーサル現場に潜入した。



初回盤



通常盤

3rd Album 『fantasia』 Now on Sale.

初回盤 (CD+DVD) ¥3,300 (+税) AZZS-61

DVD収録内容:

2016年に行われたワンマンツアー「GREEN CARAVAN TOUR」よりツアーファイナル恵比寿LIQUIDROOM公演のライブ映像。

通常盤 (CD) ¥2,400 (+税) AZCS-1066

01. キャラバン 02. 地球儀 03. 涙星群の夜
04. heartbeat 05. innocence 06. at (liberty)
07. pellucid 08. オフコース 09. 不死身と七不思議
10. eve

撮影 = マスダレンゾ

リリースワンマンツアー "in fantasia"それぞれの見どころと意気込み

松本 大(Vocal & Guitar)

ライブはもちろん良いものにしたいなと思っているんですけど、最終的には、僕らにとっても皆さんにとっても、日常が、自分の人生がより輝いて、ライブが終わった先のこれからがもっと楽しくなるようなツアーにしたいなと思ってます。すげー、皆さんと一緒に歌いたい、鳴らしたいと思ってます。以上！



大屋 真太郎(Guitar)

ギターソロがめちゃくちゃカッコいいので、刮目せよ！じっくりと観て、聴いて、五感で楽しんで下さい。

中原 健仁(Bass)

歌ったり、飛び跳ねたり、好きに楽しんで特別な1日にしましょう。みんなで一緒に歌おう、地球儀！

川口 大喜(Drums)

今回のツアーはいろんなキャラクターの楽曲たちが揃っているので、メンバーそれぞれのいろんな顔を見せてくれると思います。それが見所です。



LAMP IN TERREN ONE MAN TOUR 2017 "in fantasia"

5/07(日)	札幌 COLONY	OPEN / START 16:30 / 17:00
5/13(土)	名古屋 CLUB QUATTRO	OPEN / START 17:00 / 18:00
5/20(土)	岡山 IMAGE	OPEN / START 16:30 / 17:00
5/28(日)	仙台 HOOK	OPEN / START 16:30 / 17:00
6/02(金)	高松 DIME	OPEN / START 18:30 / 19:00
6/03(土)	福岡 BEAT STATION	OPEN / START 17:30 / 18:00
6/11(日)	新潟 CLUB RIVERST	OPEN / START 16:30 / 17:00
6/18(日)	心斎橋 BIGCAT	OPEN / START 17:00 / 18:00
6/30(金)	恵比寿 LIQUIDROOM	OPEN / START 18:00 / 19:00

全公演共通

前売 ¥3,300(税込・ドリンク代別)
各プレイガイドにて発売中



LAMP IN TERREN

<http://www.lampinterren.com/>



Members Messages

みんなと一緒に
トリップしよう！
by 秋山 (AKIYAMA)

みんな一緒に
楽しもうぜー!!
by 秋山 (AKIYAMA)

日常に「と」が
増えそう
リアーにきき。
松本

「全力」でやるから
「全力」で楽しんでね!
by ゲイ

LAMP IN TERREN特集、撮影の裏側を「+H WEB」で公開中！

+H RECOMMEND

Saucy Dog



声・メロディ・歌詞の三拍子が揃った3ピースバンドの大型新人登場

関西で結成された3ピースバンド。THE ORAL CIGARETTESやフレデリックを排出したMASH A&Rのオーディション「MASH FIGHT!Vol.5」にて2016年度グランプリを獲得し、2016年末に公開された「いつか」のMVは公開から4ヶ月で異例の再生回数50万回超を記録している。

そんな彼らの初の全国流通盤となる1st Mini Album『カントリーロード』が5月24日にリリースされる。本作はライブで披露されている曲を中心に構成された、バンドの名刺代わり一枚となっている。9月には東名阪でのリリースツアーファイナルシリーズ開催が決定している。その声・メロディー・歌詞の持つ“人を惹きつける力”を是非ライブで体感してほしい。

期待の大型新人、見逃さずチェックしておこう。



1st Mini Album

『カントリーロード』2017.05.24 Release.

MASHAR-1004 / ¥1,667(+税)

1. 産 2. ナイトクローキング 3. いつか 4. ジオラマ
5. マザーロード 6. Wake 7. グッバイ

カントリーロード RELEASE TOUR FINAL SERIES

「ずっと ～東名阪対バンツアー～」 各公演スリーマンを予定。出演者後日発表。

2017.09.08(金) 大阪 江坂 MUSE

2017.09.10(日) 名古屋 池下 UPSET

2017.09.17(日) 東京 渋谷 TSUTAYA O-Crest

全公演共通 前売 ¥2,500(税込・ドリンク代別) PG一般発売日 2017年06月17日(土)

HIP LAND MUSICがオススメする、
新時代のアーティストをフィーチャーするライブイベント

xsprout.

(エクスブラウト)

#1

2017.8.15

下北沢 BASEMENT BAR

OPEN 18:00 / START 18:30

TICKET adv. ¥2,000(+1D) / door ¥2,300(+1D)

STARTまでの来場で500円分の物販商品券をチケット代からキャッシュバック

xsprout. (エクスブラウト)とは…

"未知"や"乗算記号(×)"を意味する「x」と

"新芽"や"成長"を意味する「sprout」に由来した造語

HIP LAND MUSICで行われる新人発掘オーディションへの応募の中から、“ぜひライブで観てみたい”、“より多くの人に知ってもらいたい”とプロジェクトスタッフが感じたアーティストを中心にブッキングを行っています。このイベントを通して、今後一緒に活動していくアーティストにも出会いたいと考えています。

本イベントは年3回(2017年8月、12月、2018年3月)の開催を予定しております。



デモ音源募集中。

HIP LAND MUSICは素晴らしい才能との出会いを待っています。送っていただいたデモ音源は『全て』聞かせていただきます。詳細は右記のQRからHPをご覧ください。→



INT HIP LAND MUSIC
CREATIVE
DIVISION

VRDG

VRDG⁺H #4

2017.06.18 (日)

DMM VR THEATER 神奈川県横浜市西区南幸2丁目1-5

HIP LAND MUSICが始動させたクリエイティブ・ディビジョン「INT」と、新たなオーディオビジュアル表現を開拓する電子音楽イベントシリーズ「VRDG」とのコラボレーションイベント。過去の#1、#2は共に全席ソールドアウトし、前回の#3では昼夜2回公演を行い大成功を収め、終演後もSNSや各メディアで大きな話題を呼んだ。世界最高峰の3DCGライブホログラフィック施設「DMM VR THEATER」を舞台に、再び気鋭の才能が集結。新しい視覚表現の場を提供する。

HIPLAND MUSIC
CORPORATION

INT

VRDG

DMM.futureworks

DMM VR THEATER

INT とは？

音楽プロダクション「HIP LAND MUSIC」が新たな事業として2016年にスタートさせたクリエイティブ・ディビジョンです。インタラクティブ、インターナショナル をテーマに掲げ、HIP LAND MUSIC がこれまで培ってきた、アーティストプロデュース、クリエイティブノウハウを更に活かすべく設立しました。プログラマー / ビジュアルアーティスト / フォトグラファーなど、日本に留まらず、世界に向けて新しい時代を創造するクリエイターを発掘 / プロデュースしていきます。

<http://www.hipland.co.jp/int/>

HIP LAND MUSIC



サカナクション



KANA-BOON



The fin.



奇妙礼太郎



avengers in sci-fi



LITE



天才バンド



bonobos



Kidori Kidori



Predawn



ワンダフルボーイズ

LONGFELLOW



BUMP OF CHICKEN

sweet boon music



ゴンチチ



EGO-WRAPPIN'

MASH A&R



THE ORAL CIGARETTES



フレデリック



LAMP IN TERREN



パノラマパナタウン



Saucy Dog



YAJICO GIRL

SUPPORT & PUBLISHING



米津 玄師



GOOD ON THE REEL



チーナ



yule

PLUS +H WEB

音楽に関わる様々なコンテンツプロデュースを行う、
HIP LAND MUSICによる音楽メディアがOPEN!
オリジナルのプレイリストやアーティスト情報をはじめ
音楽業界の裏側に迫るスタッフBLOGを更新中!
『+H』がポジティブな感情をプラスします。



+H (プラスエイチ)
<http://www.hipland.co.jp/plus-h>



～+H スタッフ編集後記～



編集長：根岸 @IchBin_Ngs

名古屋のえびせんべい『ゆかり』が大好きです。日頃からの過剰主張の甲斐ありまして、お土産にえびせんべいを貰う機会がぐっと増えました。声に出すことって大事ですね。次号も制作頑張ります。

編集担当：福島

最近、疲れて帰ると、寝る前にインスタグラムで、猫の動画を何とはなしに見てしまいます。猫には癒し効果でもあるのでしょうか？少なくとも中毒性はありそうです。忙しい日々ですが、のんびりやっていきたいですね。



編集担当：朝比奈 @_ashnsk

季節の変わり目、気温差にやられて風邪をひき、治ったと思ったら副鼻腔炎になってました…。季節の移り変わりが早過ぎて何だかついていけません。Twitter 警備してるのでぜひ「#プラスエイチ」で呟いて下さい。

デザイン担当：岩本 @hallo3310

最近壁がとても好きです。撮影に使えるような壁を探す事をきっかけに、壁自体の美しさに魅入られてしまいました。今回の+Hの撮影でも良い壁にたくさん出会えました。次号も良い壁に出会えますように。



HIPLAND MUSIC CORPORATION

SNS & CONTACT

@hiplandmusic

@hiplandmusic

hiplandmusic

www.facebook.com/hiplandmusic

ハッシュタグ：#プラスエイチ



ヒップランドミュージックの公式LINEアカウントを開設。
ヒップランドミュージック公式アカウントでは「LINE LIVE」を
使用した貴重なライブ映像配信ほか、最新情報をいち早く発信。
LINE アプリー公式アカウント→ヒップランドミュージックで検索



本誌のご意見・ご感想はこちらまで!!

plus-h@music.hlg.co.jp